

令和3年度 社会福祉法人 高岡市身体障害者福祉会 事業報告

<法人全体>

- ・当法人は、「利用者の尊厳と地域社会との共生・連携の思想を基本理念とし、公平で公正な法人経営に務める。」とともに、地域福祉(高岡福祉圏)の充実発展に寄与してきた。
- ・職員の働きやすい環境整備として、福祉機器を積極的に導入し、身体的介護負担の軽減を図り、産業医と連携しストレスチェックを実施することで職員の心のケアにも努めている。経営組織のガバナンスを強化し、経営資料の公開や機関誌の発行に留まらず、ブログで施設内の行事や出来事を発信している。
- ・「利用者や働く職員から選ばれる」法人を目指し、利用者の処遇改善と職員の待遇改善を進めている。
- ・法人各事業所の積極的な感染症対策。
- ・新型コロナワクチン接種の利用者・職員への実施

社会福祉事業

<本部拠点区分>

- ・令和3年度事業報告・決算の承認
- ・社会福祉充実計画の承認申請
- ・職員給与規定の一部改正
- ・理事・監事の選任
- ・理事長(代表理事)の選任
- ・評議員の選任
- ・評議員選任・解任委員の選任
- ・業務執行理事の選任
- ・志貴野苑・志貴野ホーム・特養 志貴野長生寮・養護 志貴野長生寮の管理職等の選任
- ・役員及び評議員並びに評議員選任・解任委員の報酬規程の一部改正

<志貴野苑拠点区分>

①障害者支援施設 志貴野苑

- ・入所利用者は33名定員のところ、現在30名。12月28日に居室での転倒(脳挫傷)により入院、1月8日外出時の膝のケガ(骨折)で入院、2月14日透析通院中に嘔吐で入院と3名が長期入院中。新規入所は、4月20日頃に1名予定している。
- ・高齢化や重度化に伴う入浴介助者は現在、男性5名・女性4名となっている。

②志貴野苑就労継続支援事業所

- ・2月28日男性1名退所。退所後はA型事業所に通所する。
- ・定員20名のところ現在19名である。サービス外利用は、2名。

③就労部門

- ・令和2年度はコロナウイルスの影響で売上が大きく減少したが、今年度は徐々に回復してきている。1月末現在では、生活介護就労部門の売上は前年比2割増、就労継続B型も2割増。
- ・印刷科で使用しているカラーオンデマンド印刷機は平成26年に購入した。耐用年数

は7年のため、更新の時期を迎えており、該当する補助金があれば申請し、購入を検討していく。

④施設整備について

- ・開設当初から使用している作業場等に設置してあるファンコイルが老朽化してきたため、8台入替。
- ・新型コロナウイルス感染予防対策として、利用者の方々が使用する1階洗面所、食堂、トイレ等自動水栓に取替をした。2階洗面所については、水圧が弱く水が出なくなるため現在業者と調整中。来年度以降に取替予定。

⑤苦情解決報告

- ・令和3年9月から現在まで苦情受付は0件。

<志貴野ホーム拠点区分>

①障害者支援施設 志貴野ホーム

- ・入所利用者は高齢化・重度化が進み入退院が増えている。入退所状況は、入院や病気により8月に2名・2月に1名が退所した。新規入所は9月2名・2月1名で52名の満床である。待機者は8名である。但し、入院は10月より常に2~3名いる。
- ・利用者の脱衣時の寒さ対策のため、浴槽を埋め脱衣室とする工事を施工する。R2年度(福)清水基金助成金として、7,600千円決定し、職員休憩室とともに15,485,800千円(備品等含)で改修し、利用者の入浴環境の改善と職員の働く環境を改善する。7月30日に工事完了。
- ・LPGガスの配管に漏れが検査により発見され、埋設配管であり漏洩箇所の特定が困難な事から新たにLPG配管の再敷設工事を施工する。従来は1系統で賄っていたが、障福センターの廊下の下を潜らせるのは困難な事から厨房・洗濯室と職員宿直室とに分ける2系統とした。3月14日に工事完了。
- ・各種施設行事については昨年度(令和2年度)に引き続き、利用者家族の参加を取りやめ職員と利用者のみでコンパクトにして、例年並みの行事数を実施した。

②志貴野ホーム障害者福祉センター・高岡市障害者福祉センター(通所生活介護)

- ・対前年比3名/日減少したが、志貴野ホームへの入所と長期入院のため。ただ、4月より支援学校卒業者が2名利用の予定。
- ・行事については、感染対策を講じて実施している。

③高岡市志貴野身体障害者相談支援センター

- ・相談内容は、在宅での生活が出来なくて困っている方が増えているなど、緊急性の高い困難事例が増えている。

④設備整備

- ・9月床頭台(利用者居室用)15台更新、10月スタッフルームのキッチン工事、11月無線LAN設備工事、11月防犯カメラ設備工事(志貴野ホーム・高岡市障害者福祉センター)、12月除雪用ホイールローダー購入、1月自動寝返りベッド購入

<特別養護老人ホーム 志貴野長生寮拠点区分>

①特別養護老人ホーム

- ・今年度1月末までに26人の入退所があり、入院者と合わせると、常に1~2床の空床がある状態(実稼働率:98.24%)

- ・入所待機者は、1月末時点で61人。うち、要介護4,5の申込者は39人で、重度者の割合は高い。

②短期入所

- ・4月～1月末日時点で1日平均3.09人の利用がある。(実稼働率：61.66%)昨年度より下がってはいる。ただ、在宅の方の新規利用相談は増え続けているが、人手不足等による他の特養での利用制限によるものと思われる。「かたかご苑の利用者」も短期入所を経て施設入所となっている事例も出ている。

③地域密着型通所介護

- ・定員15名のところ1月末までで平均10.50人。
- ・利用登録者28人のうち、養護老人ホーム 志貴野長生寮の利用者19人(約68%)であり、養護の動向(重度化に伴い、デイ主体からショート主体に利用方法が変わる等)次第で稼働率が大きく低下する状況である。
- ・稼働率については、養護の「特定施設利用者」かたかご苑グループホームの65歳以上の定期利用者が安定しており次年度はさらなる上昇が期待できる。
- ・稼働率向上を図るため、地域のショッピングセンターに「デイサービスだより」を掲示継続や医療機関等など拡大を図っている。

④居宅介護支援事業

- ・1月末日時点での契約者数は32人であり、その中で養護入所者は14人である。理由として、本年度より養護で特定施設入居者生活介護事業を実施したため、6月より養護の契約者が特定施設の介護支援専門員に移った事による。

⑤設備整備

- ・令和4年2月28日富山ファーストバンク福祉基金の補助660千円を受け、来客用のスリッパの除菌機を特別養護老人ホームの入口3ヶ所に税込み990千円で整備。
- ・令和3年11月1日特養リビングにカーテンを2重の仕様とした面会室を整備(建物の貸主である富山県に設置申請済)。

<養護老人ホーム 志貴野長生寮拠点区分>

①養護老人ホーム 志貴野長生寮

- ・定員100人に対し、実入所措置者数は80人弱で推移しているが常時入院者が4名程いる状況である。
- ・緊急的なミドルステイは、昨年度のように定員4人を超過して受け入れることはなかった。
- ・年間行事については、特養との共催となっていた夏祭り・文化祭も各施設での小規模に実施。外部を招く形の行事も、利用者と職員だけで小規模に実施した。
- ・利用者の重度化が年々進行しており、本来身辺自立していることが要件だが、要介護認定を受けている利用者が50人を超える状況が常態化している。今年度より特定施設入居者生活介護事業を開始している。特別養護老人ホーム 志貴野長生寮と協議しながら、要介護3の方の特養への移行を円滑に促進する必要がある。

②設備整備

- ・令和3年6月、養護玄関のワックス剥離を行い明るいペーージュの床色が蘇る。
- ・令和3年9月、男女の更衣室を完全分離し、男子ロッカーを機械室に移動した。